

## 教育・事業本委員特別賞

# 退職した先生が開く工業孝行 ～未来のスペシャリストが育つ場所～

大分県 | 大分県立大分工業高等学校 選手…3年生1名



地域に開く工業高校として企業連携・地域連携・地域貢献・産官学連携をめざしており、生徒たちの各々の専門力を活かして、地域に開き地域に愛される学校にしたいという思いを込めた提案である。

学校のアンテナショップ的発想で、生徒と地域住民の理解と交流の場として具現化した提案は相互理解が生まれる場として期待したい。4棟の専門棟はかなり狭小なため、十分な集客力や生産性はあまり望めないと思える。退職した先生が管理し、放課後や休日に生徒たちがやり甲斐や楽しみを求めて集う場所としては、無理のないサイズなのかもしれないが、もう少し空間のスケール感を意識して欲しかった。また全体的な印象としては、住宅街の一角の広場に画一的な小屋が配置されている感があり、各建物についてはプラン的にも外観のデザインや植栽にしても住宅街に溶け込むような工夫が欲しいところである。なお住宅棟の軽食提供スペースはあまり必要性が感じられず、素直にダイニングキッチンを広げたほうが、必要に応じて大勢で使えるなど利用価値は上がるものと思われる。

地元企業との連携も上手く繋がれば、退職した先生夫婦と生徒、子



どもたちを含めた住民たちで和気あいあいとWIN WINの関係を築き、ひいては学校への評価も高まることに期待します。教育・事業本委員長賞おめでとうございます。(田中)

## 青年委員長特別賞

# 混ざり合うまちのすみか

岐阜県 | 岐阜工業高等専門学校 選手…3年生4名



「まちに住む・地域に開く」というテーマに対して、敷地設定したまちと周辺環境にしっかりと目を向けており、残すべきもの、変わるべきものをしっかりと捉え、提案に昇華させている。単に計画案を考えるだけでなく、過去から未来に繋がる時間軸も設定し、土間でまちとの繋がりを生み、居間が人と人を繋いで、記憶を継承していくというストーリーも、地域性が出たとても良い提案だと感じた。まちと暮らしを繋ぐ道に敷地に取り込んだ仕掛けや、土間と居間、土間とアトリエとの段差やルーバー等による空間的なつながり方も、程良い距離感を演出できており、ここでの生活の楽しさが想像できる。

2階の間取りにもまちとの関係性をうかがえる工夫があれば、なお面白い案となっただろう。単純にプライベート空間を仕切るのではない空間の繋げ方を考えてほしい。延床面積の550㎡は住宅としてはかなり規模が大きく、この規模を肯定するにはまだ提案内容が薄い部分もあり、今後に期待したい。提案書は統一したトーンで綺麗にまとめられており、見やすくわかりやすいものとなっている。

このような丁寧な作品づくりを今後も続け、地域に貢献できる設計



者になってもらいたいとの期待も込めて、青年委員長賞を贈ります。おめでとうございます。(吉田)